



発足三百年・復活四十周年 津屋崎祇園山笠

江戸時代から幾世代にも受け継がれてきた、津屋崎祇園山笠。人々の縦横の繋がりと情熱のもと、郷土の祭りとして現在まで大切に育まれてきました。今回の特集では、山笠の三百年の歴史、そして百年後の未来も山笠をみなで共に育み守り続けることを願い、今夏行われる取り組みをご紹介します。

津屋崎祇園山笠のはじまり

博多祇園山笠のはじまりから四百七十年余り経つ、一七四四年。福岡市の櫛田神社から津屋崎の氏神様である波折神社へ祇園の神様を迎え、旧暦六月十九日に三本の山笠を建てたのが、津屋崎祇園山笠のはじまりと言われています。(筑前国統風土記拾遺より)。
農業中心の地域が「岡流」、商業中心の地域が「新町流」、漁業中心の地域が「北流」というように、三本の流れは当時の職業にそって組みま

た。開始当初から三本の山笠が建つのは珍しく、津屋崎が港町としていかに繁栄していたかが偲ばれます。

山笠当初の目的は、無病息災を祈願すること。山笠がまちを駆け巡ることは、そこに住む人々をお祓いすることと同義とされます。現代では郷土愛の高揚、青少年の育成、観光をはじめとした地域活性化なども目的とされています。

四系統の「津屋崎系」

九州北部の山笠は、大きく四系統に分かれます。

津屋崎系はその一つであり、その他に博多系、直方系、日田系があります。博多に次いで古い歴史を有している津屋崎祇園山笠は、津屋崎系の筆頭であり、津屋崎から福津市・宗像市の九つの地域へ広がっていきました。

【津屋崎系の山笠】

- 福津市：勝浦、福岡
- 宗像市：大島、鐘崎、玄海、神湊、地島、東郷、田熊、吉武

歴史と伝統ある郷土の祭りとして、次世代にわたり保存するため、津屋崎祇園山笠

は二〇〇四年に市無形文化財に指定されています。

受け継がれてきた山笠

津屋崎祇園山笠は、三百年の間、毎年変わらず同じように行われてきた訳ではありません。次ページ掲載の年表・写真の通り、「伝統の継承」と「環境への適応」のバランスを取りながら、姿を変え、受け継がれてきました。

また戦時中も継続した力強さ、一時中断するも日程を変え、復活した熱意と努力をはじめ、かき手やごりよんさ

ん(かき手を支える女性)の情熱によって、山笠は大切に育まれ現在に至ります。



▶須賀神社(祇園社) 祇園祭



▶津屋崎系の一つ福岡山笠(昭和五十五年)



家屋の屋根が低かったため、数キロメートル離れた地域からも山笠が動いているのが見えていたと言われている



サイズは縮小されるも、装飾は明治期を踏襲。飾りが大きく、山笠の台よりも外側へはみ出すほどに

年表 津屋崎祇園山笠 三百年の歩み

一七二四年(江戸時代中期) 博多の櫛田神社から波折神社へ祇園の神様を迎え、三本の山笠が建つ

明治時代

高さ十メートル以上の山飾りがまちを駆け巡る

一九一六年(大正五年) 電線が張り巡らされ、山飾りが高さ五メートルほどに縮小。戦時中も山笠は継続

一九六三年(昭和三十八年) 給与所得者が増え、かき手不足でこの年を最後に一時中断

一九七五年(昭和五十年) 祇園山笠一本が復活

一九七九年(昭和五十四年) 三本の山笠が完全復活する

二〇一四年(平成二十六年) 発足三百年、復活四十周年を迎える



昭和期に入ると、一つ一つの飾りは小さくなるが、繊細さが増し、きめ細やかな装飾に



平成期に入るとの時代よりも安定性を重視した三角形の姿に

発足三百年復活四十周年 記念イベントスケジュール

記念イベントを日付順に紹介します。
詳しくは市商工観光課ホームページ「ふくつのじかん」をご覧ください。

福津の山笠学校

6月16日(月)~22日(日)

場所:イオンモール福津 ノースコート
本物の山笠や巨大パネル展示をはじめ、山笠を楽しく学ぶことができるイベント

津屋崎祇園山笠三百年復活四十周年 記念特別展

7月1日(火)~21日(月・祝)

場所:行政・観光情報ステーションふつくる
7月3日(木)~21日(月・祝)

場所:津屋崎千軒なごみ
山飾りの人形や山笠の今昔写真パネルや法被などの特別展(主催:津屋崎山笠保存会)

夕陽館ふれあい塾 「これがわがまち自慢の山笠たい」

7月2日(水)~21日(月・祝)

場所:潮湯の里 夕陽館

津屋崎祇園山笠 今昔展

7月12日(土)~20日(日)

場所:津屋崎千軒民俗館 藍の家

山笠を歩こう 追い山ウォークラリー

7月13日(日)~19日(土)

受付・ゴール:津屋崎千軒なごみ
追い山コースに設置された10個の問題を解いて、記念グッズをもらおう!

福津暮らしの旅 「伝統の祭りをめぐる旅」

7月19日(土) 14:00~17:30

集合場所:津屋崎千軒なごみ
山笠の歴史やしきたり、楽しみ方をめぐる旅(申込・問い合わせ:福津暮らしの旅事務局 ☎080-4168-5163)

次号予告(7月1日号) 追い山の楽しみ方

問い合わせ 市商工観光課(津屋崎庁舎)
☎0940-52-4951



七月十二日(土) 七月十三日(日) 飾り付け

北流は十二日(土)午後一時頃から、岡流・新町流は十三日(日)午前八時頃から午後三時頃にかけて、順番に飾り付けの作業を行います。飾りの素材は全て津屋崎人形師・原田誠氏の手作りです。
飾り付けは人形師の指示に従いながら作業が進められます。飾り付けの後、夕方に前年のお宮出しの順番で、波折神社へお宮入りを行います。
◆作業場所◆
岡流 JAグリーンセンター倉庫前(地図④)
新町流 井ノ口倉庫(地図②)
北流 津屋崎漁港アーケード(地図③)



七月十九日(土) 裸参り 集団山見せ

裸参りは翌日の追い山の安全祈願をする行事で、祇園山笠の中で津屋崎にしかないものです。波折神社と須賀神社(祇園社)、金刀比羅神社、宮地嶽神社を参拝する約七キロの夜道を提灯片手に駆け抜けます。
同日開催「サマーナイトインふくつ」では、三流の山が並び集団山見せが行われ、ライトアップされた姿を見ることが出来ます。また同会場を駆け抜ける裸参りも見えます。
◆裸参りおススメスポット◆
午後七時:波折神社へお宮入り(地図⑤)
午後八時頃:宮地嶽神社
午後九時頃:サマーナイトインふくつ会場(地図⑥)



七月六日(日) 棒締め

午前八時から午前中いっぱい、六本の棒と土台をロープで絞める作業を行います。流れごとに締め方は異なりますが、「ウントコネ」という掛け声は一緒です。掛け声のもと、息を合わせて締めあげていきます。棒締めの後、少しだけ試しがきを行い、棒の締めまり具合を確認します。
◆作業場所◆
岡流 津屋崎千軒なごみ(地図①)
新町流 井ノ口倉庫(地図②)
北流 津屋崎漁港アーケード(地図③)



山笠本番! 追い山が走るまで

津屋崎祇園山笠は、七月に入ると三流が本格始動します。多くの人と共に記念の年を迎えるため、追い山までの行事の中から、山笠初心者でも楽しみやすい四日間をご紹介します。



※記念イベントの一部は、宝くじの助成金により実施しています。

津屋崎祇園山笠の特色や歴史と変遷、現代の山がかかれるまでの行程、山笠の今昔記録など、今分かりうる山笠の資料が一冊にまとめられた貴重な文献「津屋崎祇園山笠三百年記念記録誌」。今回の特集も記録誌を参考に作成しています。
編集発行は、津屋崎山笠保存会、三流代表世話人、福津郷土史会、津屋崎郷づくり協議会により組織された同記録誌作成委員会が行いました。
「まちの将来を担う子どもたちに、津屋崎祇園山笠の意義や歴史、山笠の行い方を知ってもらいたい」と、「記録誌」を作成しました。ずっと先の将来、この本を読んだ子どもたちが、「津屋崎には山笠があるんだよ」と誇らしげに語ってくれたら嬉しいですね」と記念誌作成委員長・中村周一氏は語ります。
記念記録誌は、津屋崎千軒なごみ、津屋崎千軒民俗館「藍の家」、潮湯の里夕陽館で、一冊千円で販売されています。



津屋崎祇園山笠
三百年記念記録誌
が発行されました